



つくる人、はこぶ人、たべる人。
農山漁村に住む人、都市に住む人。
自分の居場所や立場を越えて人と人。

人と自然のあらたなかかわりは
顔の見える交流(Face to Face)から
心が響きあう 対流(Heart to Heart)へ。



対流

Heart to Heart
2026.01

2026年1月29日発行

特定非営利活動法人
有機農業認証協会
〒564-0063
大阪府吹田市江坂町
1丁目23-19
TEL*06-6330-0823
FAX*06-6330-0735
MAILyuukinin@apricot.ocn.ne.jp
HP : <http://yuukinin.org/>

巻頭言～サンタクルーズ便り・2

理事長 中塚華奈

新年あけましておめでとうございます。

ご存じのとおり、サンタクルーズで新年を迎えたので、初日の出の写真でもお送りしようと思ったのですが、残念ながら雨でした。こちらでは11月から3月までが雨期なのです。11月末に認証協会スタッフが研修にきててくれた時は、奇跡的に晴れ続きでした。春から夏にかけてはほとんど雨が降らないので、草木は枯れて山の色は茶色。雨が降るようになってから草が生えて、冬になると山の色が緑色になるのだそうです。寒くなると緑になるなんて、なんだか不思議に思えます。

最近、「学校では教えてくれない本当のアメリカの歴史」なる本を読んで歴史を再認識し、低賃金ワーカーで成り立つ広大なカリフォルニアの農業を目の当たりにして、自由と平等の民主国家アメリカというイメージが崩れました。2023年にミセスグリーンアップルの「コロンブス」という曲のミュージックビデオが、「歴史や文化的な背景の理解に欠ける表現が含まれていた」として問題になったことは記憶に新しいのではないでしょうか。

昨今もICE(移民・税関検査局)の民間人への銃撃事件や、

■CONTENTS

- ・巻頭言　・新規事業者紹介
- ・同等性について　など

「現在デンマーク領のグリーンランドを国家防衛のために米国の一州にするべきだ」として、トランプ大統領がルイジアナ州のジェフ・ランドリー知事をグリーンランド特使に任命したとか、なんだか何がどうなっているのかよくわからないニュースに目を丸くする毎日。

オーガニック先進地域ということで留学先として選んだカリフォルニアは、全米最多のホームレス人口を抱えているという問題もありました。高騰する住宅費、経済格差、薬物問題、メンタルヘルスなどが背景にあります。アメリカ滞在は残り3ヶ月となりました。できる限りのことを学んで帰国いたします。

本協会スタッフとともに過ごしたアメリカ研修の様子は、増野事務局長の報告はじめ、さまざまな形でお伝えしていきたいと思います。

なにはともあれ、2026年もスタッフ一同、オーガニックの検査認証業務を通して、普及拡大に務めて参ります どうぞよろしくお願ひいたします。



昨日みつけたバナナスラッグ！
北アメリカに生息する地上性のナメクジで世界で2番目に大きいそう。なんと最大25cm！

■事務局業務

*判定委員会(9/29、10/28、11/20、12/23、1/26)

新規調査7件（有機農産物の生産行程管理者1件、加工食品の生産行程管理者3件、小分け業者1件、加工食品の輸入業者1件、加工食品の飼料1件）、年次調査68件（農産物の生産行程管理者29件、加工食品の生産行程管理者21件、小分け業者10件、輸入業者5件、外国格付表示業者3件）でした。

*理事会(11/14)

2025年度第3回の理事会がオンラインにて開催されました。事務局より前回理事会以降の活動報告がありました。

■有機JAS講習会

定期講習会では有機農産物及び有機加工食品の生産行程管理者・小分け業者・輸入業者・外国格付表示業者、有機飼料の生産行程管理者を対象といたします。その他、有機料理・ノウフク・有機藻類に関しては年1回の開催予定です（日程調整中）。

日程：2/10（火）・4/10（金）・6/10（水）

一般受講料 16,500円（税込）

会員：8,800円（税込）

会員2回目以降：4,400円（税込）

詳細についてはHPを参照ください。

https://yuukinin.org/kousyukai_info.html

【農水省ホームページ掲載一覧のご案内】

農水省のホームページでは有機JAS認証事業者のリストが公開されていますが、それとは別に「有機JAS認証事業者一覧詳細」のページがあります。これは公表に同意された事業者が、どのような有機農産物、有機加工食品の生産又は取扱いをしているか情報提供するために、氏名、住所、連絡先等の公表に同意された事業者のみ掲載しています。

（掲載ページ→[有機JAS認証事業者一覧詳細（公表に同意された事業者）](#)）

つきましては公表ご希望の方は、下記のお申込みフォームから必要事項をご記入ください。2月末日まで受け付けします。今後は毎年、この時期に確認する予定です。お申込みフォーム

→<https://forms.gle/D8d6e7SHJmNqk9FJ9>



↑QRコード

※QRコードもURLも同じリンクです

■新規事業者紹介



●(株)岸本 (輸入業者)

オーガニックワイン専門商社。明治10年に大阪で創業。36年前より、欧州を中心にオーガニックワインを主体とする食品の直輸入と販売を行う。ワイナリーとの長年の強い絆をもとに各国から厳選したワインを多数そろえている。Demeter/AVN他の認証ワインも取り扱う。

<https://www.wine-kishimoto.com/main/index.html>

●(株)さかいまちづくり公社 (小分け業者)

茨城県境町にある【道のえき さかい】を中心に物産品販売・干芋/冷凍うなぎ製造・レストラン経営を行い、地域の活性化に積極的に携わっている。オーガニックオリーブオイルの小分け充填を行う。

https://www.ibarakiguide.info/members/m_00543/

●(株)リーフパック (有機加工食品の生産行程管理者)

奈良県生駒市で30年以上前から、主にお茶のブレンド・小分けを行う事業者で2015年に認証を取得。この度、ルイボスティーと阿波番茶のブレンド茶を製造する為に加工の認証を取得された。今後はブレンド茶の種類を増やしていく予定。

●合同食品(株) (有機加工食品の生産行程管理者)

大阪豊中市に位置する無添加コロッケの製造のメーカー。元IT業界で勤務されていた通称コロッケ社長の和田氏は、教育現場での食育活動にも力を入れ、学生との商品開発なども活発に行っている。

<https://www.godo-foods.jp/>

●(株)ウメケン

(有機加工食品の生産行程管理者・有機飼料)

1978年設立（大阪本社）。栄養補助食品等の製造を行う。2009年より有機加工食品の認証を取得（富山工場）し、加えて有機飼料（ペットフード製造加工）の認証を追加で取得された。ハラール認証取得済。

<https://umeken.co.jp/>

●(株)みのり

(有機加工食品の生産行程管理者・輸入業者・外国格付表示業者)

東大阪市で食品の充填・梱包・OEM製造を行う会社。将来的な輸出入も見据えて幅広いカテゴリーで認証を取得された。<https://www.k-minori.co.jp/>

●どい農園 (有機農産物の生産行程管理者)

大阪府能勢郡で数種類の野菜を栽培されている事業者で、この度有機農産物の生産行程管理者の新規申請をされた。5年ほど前に当協会認証事業者の成田ふあーむと同時期に研修を受けていた別の農家よりほ場を譲り受け、2023年4月頃より今回申請ほ場の有機的管理を開始、この度認証を取得された。

アメリカ・カリフォルニア研修報告

2025年11月27日～12月6日 @Santa Cruz, CA. U.S.A

新年あけましておめでとうございます。昨春の事務局長交代に始まり、多くの皆様に支えていただき心より感謝申し上げます。本年もよろしくお願ひいたします。

新しいチャレンジとして、昨年11月に会員の皆様にはご案内させていただいた通り、理事長の中塚が有機農業の研修をしている米国カリフォルニア州・サンタクルーズを拠点に各地で事務局員の10日間の海外研修を実施しました。研修の主な目的としていた4点(①米国の有機最新情報の把握②有機検査員としての総合的スキルアップ③日本国内での制度改善・市場拡大への活用④JAS協会の認証機関向け補助金継続予算組)について、目的の達成に充分に繋がる研修内容となりました。各訪問先・研修内容の詳細については、3月6日の3認証機関合同研修会@神戸教育会館や3月18日の第27回会員総会にて報告会を計画しています。奮ってご参加ください。なお、報告書については別途案内させていただきます。(増野)

●有機食品等登録認証機関連絡会議について

昨年11月17日に農林水産省とFAMIC(農林水産消費安全技術センター)の共催による会議が開催されました。従来は、対面とオンラインのハイブリッド開催でしたが、この回は、オンラインのみという案内でした。年1回の開催である事や認証機関からは多くの質問がある為、対面会場の設置も要望したのですが、農水省より、参加者が少ないという理由からオンラインのみになりました。参加者の人数は重要ではなく、認証の現場の課題を話し合う貴重な機会がゼロになることに危機感を覚えました。オンラインのみの開催の場合、担当者から連絡事項が一方的に読み上げられるだけで、情報交換の場にならない事が予測されました。そこで、急遽、JOAよりJAS協議会のメンバーにサテライト会場を設置し、認証機関が一丸となって必要な要望を発言しよう！と提案。神戸にあるオーガニック認証センター(OCC)の事務所に会場を設置させていただき、和歌山有機認証協会(WOCA)・兵庫県有機農業研究会(HOAS)・NPO法人赤とんぼが集合。午前中に農水省への質問・認証機関からの要望事項を整理・発言する認証機関を分担し、会議に出席しました。予測通り、1年間の不適合事項が延々と早口で読み上げられるだけで改善事項の解説はなく、認証機関からの質問・要望事項『輸出証明発行手続きを農水省で一括管理をして欲しい』『同等性の条件について煩雑なので、輸出と輸入を分けて一覧表に整理して欲しい』『他の国との同等性交渉の進捗は？』『検査員向け研修を農水省主導で実施して欲しい』については、【持ち帰って検討する】という回答がほとんどで、前向きな動きはなさそうです。まだまだ質問が続く中で時間になった、といきなり会議は終了されました。1年に1回しかない機会ですが、毎回不完全燃焼です。1点飲料用有機JASアルコール(海外現地JAS認証品)を輸入する際、日本国での通関でアルコール度数から、工業用アルコールに分類されることがあります。この場合、有機JASの対象ではなくなり(食品ではなくなる)、非有機原材料の添加物としてなら使用が可能という事でした。製品の分類については、各国で条件が異なる為、輸入の際は注意する必要があると思います。(増野)

●会員総会記念講演＆総会のお知らせ

有機農業認証協会第27回会員総会

記念講演のご案内

「アグロエコロジーとは？ 米国有機農業の現在」

講師：村本穰司

日時：2026年3月18日(水)

時間：日本時間 10時～11時半

アメリカ・カリフォルニア・

サンタクルーズよりZOOM中継

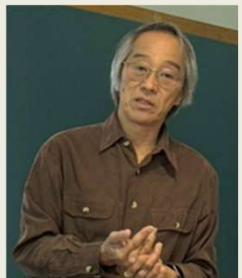
参加費：会員 無料

非会員：1,100円(税込)

会員総会：13時～14時30分

«村本穰司氏プロフィール»

1990年代前半まで東京農大で有機・慣行農業による野菜生産畠の土壤肥沃度の研究に従事。1996年にカリフォルニア大学サンタクルーズ校に移動し、スティーブン・グリーズマン教授の下で、アグロエコロジー(農生態学)の研究と有機栽培イチゴの肥沃度及び土壤病害管理の研究と普及を始める。2019年にカリフォルニア大学最初の有機農業スペシャリストに採用され、以来同州全体の有機農業とアグロエコロジーに関する研究と普及に携わっている。スティーブン・グリースマン書の『アグロエコロジー・持続可能なフードシステムの生態学』の監訳を担当。



日本と米国の有機農業を熟知し、またアグロエコロジーの第一人任者が語るその原則・有機農業の光と影・今後の課題・日本への示唆を学ぶ貴重な講演です。奮ってご参加下さい。

*お申し込みは事務所まで yuukinin@apricot.ocn.ne.jp

●認証機関合同研修会のお知らせ

【KANSAI-3】

HOAS・OCC・JOA認証機関フォーラム合同研修会

販路拡大トークセッション

～販売の現場から

「売り方」「売れるもの」を探る！～

○スケジュール

13:30 開会

13:35 アメリカのオーガニック認証の報告

(有機農業認証協会：増野事務局長)

14:25 パネリスト活動紹介

14:40 トークセッション

16:00 名刺交換・交流会

16:30 閉会

17:00～19:00 立食懇親会

■2026年3月6日(金) 13:30～16:30

神戸市教育会館大ホール

■参加費：研修会 2,200円(税込)

懇親会 3,300円(税込)



«ファシリテーター»

黒瀬 啓介

株式会社やがて代表取締役
(一社)オーガニックフォーラムジャパン
理事



«パネリスト»

來田 文香

株式会社風水プロジェクト執行役員
ゆうき市場事業本部商品市場開発
グループグループ長



小野 邦彦

株式会社坂ノ途中代表取締役

●お申込は、2月20日(金)まで 下記お申込フォームまで

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeLtWfUq5Z0Xrmytbz9n2E-0tqsbQpKxFpqxYPCAHvZQdAg/viewform>

← Ctrl を押しながらクリックしてください。

IFOAM International(国際有機農業運動連盟)が 有機JAS放射線照射の種苗使用許可を撤回要請！

IFOAM International(国際有機農業運動連盟)の公式認定部門から、2025年11月25日に【あきたこまちR】を有機JAS認証の対象とすることを断固として拒否するという公式文章が、農水大臣、農研機構理事長、秋田県知事宛てに送付されました。詳細についてはプレスリリースを参照下さい。[【プレスリリース 12/5】](#)

2025年7月1日の有機農産物のJASの4規格の改正に合わせ、同10月に【有機農産物・有機加工食品、有機畜産物及び有機飼料のJAS Q & A】が改訂され、(問 10-10)(詳細は下記)が追加されました。

このQ&Aが追加される際に、農林水産省は有機農家・消費者団体・登録認証機関などに説明などを行いませんでした。当協会は、重イオンビーム使用の放射線育種は、有機のコーデックスガイドラインに記載のある「自然に生じることのない方法で遺伝子物質を変化させる技術」に明らかに該当すること、自然の摂理を逸脱しない農業という有機JASの基本原則から外れる事・表示名はあきたこまちのままなので、新種の「あきたこまちR」なのか、従来の「あきたこまち」なのか判断できないことなどの理由から、JAS Q&Aの問10-10を直ちに取り下げるとともに、有機JAS規格の改正案も早急に決定する事を要望する、【重イオンビーム技術を利用した品種・種苗を有機JASで認めないことについての要望】を有機JAS登録認証機関協議会のメンバーとして農林水産大臣・FAMIC技術センター・日本農林規格協議会に提出しました。秋田県は昨年秋より全面転換する事に決定ましたが、他の都道府県の消費者は計画の延期・見直しを求める署名を県に提出しているようです。

(問 10-10) 有機農産物のJASにおいて、放射線照射を利用して改良された品種やこれらを祖先にもつ品種の種苗を使用することはできますか。

(答:全文) 有機農産物のJAS 5.4.5において、組換えDNA技術を用いて生産された種苗の使用は禁止されています。一方で、放射線照射による品種改良は、同JAS 3.6において定義された組換えDNA技術「酵素等を用いた切断及び再結合の操作によって、DNAをつなぎ合わせた組換えDNA分子を作成し、それを生細胞に移入し、かつ、増殖させる技術」に該当せず、有機農産物のJASにおいて放射線照射を利用して改良された品種やこれらを祖先にもつ品種の種苗を使用することは問題ありません。なお、放射線照射による品種改良は、国際基準である有機のコーデックスガイドラインやEU等の有機規則においても禁止されていないものと承知しています。

有機農家・消費者団体・登録認証機関などの同意がないまま、農林水産省が進めたことについて、IFOMが断固として拒否したこの動きは今後注視していく必要があります。有機同等性が進む中で、【あきたこまちR】の米・これを原料とする加工品の輸出がどのように影響してくるのかも懸念しています。なお、1月29日現在では、発行された公式文章への農林水産省の動きは案内されていません。2024年11月号の会報も合わせて参照下さい。(増野)



有機認証制度の同等性について

【有機同等性】とは…国家・地域間で有機認証体制等について、【同等性】が認められれば、他国・地域の有機認証を自国・地域の有機認証と同等のものとして取り扱う事が可能

更新日： 2025年10月10日

	農産物	農産物加工品		畜産物及び 畜産物加工品
		酒類以外	酒類	
米国	○	○	●☆-①	○
EU	○	○	○	○
カナダ	○	○	○	○
台湾	○	○	○	-
英国※-④	○	○☆☆-③	●☆☆-②	-
スイス	○	○	- (補足説明参照-⑤)	○
豪州	○輸入のみ	○	○☆☆☆-⑥	○輸入のみ
NZ	○輸入のみ	○	○☆☆☆-⑥	-
アルゼンチン	○輸入のみ	○輸入のみ	-	-

①●☆ 2025年10月1日 同等性発効 酒類別に別途条件があるため注意。

②●☆☆ 2025年10月1日 同等性発効 酒類別条件の設定はない。原料原産地制限の撤廃

③○☆☆ 2025年10月1日 同等性発効 原料原産地制限の撤廃

④※英国はEUではないので、同等性でユーロリーフづけて輸出しても外国格付表示事業者になる必要はない

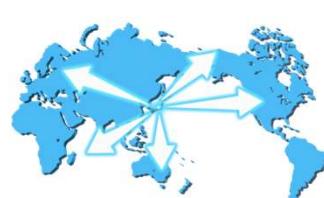
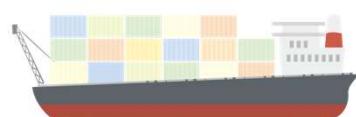
⑤【スイス酒類の補足説明】

- 日本➡スイスへの輸出：有機ワイン（ぶどう酒）を除く有機酒類について、有機同等性を用いて輸出可能。
- スイス➡日本への輸入：有機酒類は有機同等性の対象外。

なお、日本-スイス間の有機同等性においては、日本側に原料原産地制限（日本又は日本の同等国産に限る）が課されていることにご留意ください。

⑥○☆☆☆ 2025年10月1日 有機酒類同等性発効

⑦豪州・NZについては、日本の有機制度に基づく有機食品であれば輸出可能（有機同等性の承認は不要）



【チャレンジ問題です！】

Q：同等性を利用して米国から加工食品を輸入して、国内で有機JASマークを付けて販売したいと考えています。この加工食品にはステビアが5%未満含まれていますが、ステビアは表A.1には記載がありません。この加工食品を同等性を利用して有機加工食品として販売できますか。

A：表A.1に記載されていないステビアが含まれていたとしても、有機農産物、有機加工食品、有機畜産物及び有機飼料JASのQ&A問5-4にあるように、①当該物資の輸出国が同等国であり、②当該物資が当該同等国の国内で生産及び格付され、③当該同等国の政府機関又は準政府機関が発行した証明書又はその写しが添付されている場合は、有機同等性を利用して認証輸入業者が有機JASマークを貼付できます。

・参考：有機農産物、有機加工食品、有機畜産物及び有機飼料のJASのQ&A 問5-4（国税庁・農林水産省 令和6年7月現在）

※FAMICホームページ▶有機JAS▶有機藻類・その他より抜粋しました

[有機JAS\(有機藻類・その他のQ&A\) - 独立行政法人農林水産消費安全技術センター\(FAMIC\)](#)

●有機農業の里「小川町」

埼玉県比企郡小川町に移住した友人の案内で、2025年12月に小川町の霜里農園を見学してきました。小川町は埼玉県のほぼ中央に位置し、東京池袋から電車で1時間のところにあり、古くから和紙づくりや酒造などの伝統産業が盛んに行われた地域です。高齢化による人口減少などの課題も抱えながら、身近に農ある暮らしを求めて移住者が増えており、活気あふれる町になっています。

●循環を実践する霧里農園



有機農業の第一人者だった金子美登（よしのり）氏は2022年に旅立たれ、農園はご家族が継いでおられます。



踏み込み温床。関東地方の伝統的な技術だそうです。



踏み込み温床で、さつまいもの伏せ込み（芽出し）中です。



現在は牛が2頭。堆肥にも使え、可愛くて癒しにもなりそうです！

霜里農場は小川町で故金子美登さんが一人で始めた有機農園でしたが、今では70軒をこえる生産者が有機農業に取り組んでいます。積極的に研修生を受け入れ全国に150人以上の農家が誕生しました。金子さんの元で学んだ方たちが、そのまま小川町で独立する場合も多く、小川町は有機農業の里として有名になりました。多くは有畜複合で循環した農業を展開し、各自それぞれに消費者と提携し、一部を共同で出荷しています。

霧里農園の農法としては踏み込み温床を活用しています。落ち葉、藁、牛糞、米ぬか、オカラなどを60～70cm積んで発酵させます。土をかぶせ、覆いをかけて1週間ほどおくと発酵し始め70°Cもの熱が出てきます。さらにしばらくおくと温度は下がり始め、30°C程度が

2ヶ月ほど維持します。その温床の上に苗箱をおいて種を蒔き育苗します。用済みになった温床は枠の中から取り出して、野積みして1～2年置くと、大変良い腐葉土となる無駄のない方法で循環しています。

●エネルギーを創造する農業へ

霧里農園では、畑で作った大豆を隣町のお豆腐屋さんに出荷し、廃棄物となるオカラや廃油を回収します。おからは家畜のえさになったり、100日ほど発酵させて燃料や液肥となります。廃油は遠心分離機にかけて蒸留して、農園で使用するトラクターなどの燃料として使います。農園内で使用する燃料は、すべて内部で貯うことができています。トイレも「あうんユニット発酵式」というバイオ式で、好気性発酵と嫌気性発酵を取り入れた構造で、最終的には水になり、堆肥として畑に返すという優れた循環システムでした。

霧里農園のエネルギーに対する取組は広がり、1996年には小川町と近隣の住民有志により「小川町自然エネルギー」が設立され、食やエネルギーの地産地消の取組は行政とも連携し大きく広がりつつありました。



左が精製した油。右が廃油で遠心分離器にかけることで燃料となります。



発酵槽に入れて発酵させて出来た液肥。発酵時に出るガスは、料理や風呂、温水器等で燃料に。



バイオトイレ。「循環の大地」と書いた色紙が貼ってありました。



住居部分に使用しているウッドボイラー。木材チップや廃材を利用して温水や暖房に利用できます。

●あとがき

有機農業が盛んなだけでも素晴らしいのに、エネルギーの自給に近隣の町も巻き込んでの取組は本当に勉強になりました。どんどん新しいチャレンジを皆で行なうことが町の魅力となり、移住者が増えていくのだと納得しました。食とエネルギーの自立は理想的で、気づきの多い見学となりました。（記事：森井）